

Interview スポ少団員の保護者に聞きました



及川 加成恵さん  
(東和町錦織1区)

保護者同士で交流して  
私も楽しんでます

こどもが野球のスポ少に入団しています。野球は送迎や費用など、保護者の負担が大きいと聞いたことがあったので不安もありましたが、送迎は保護者同士が協力し合い、費用面でもシューズや練習着のお下がりももらったので、それほど負担に感じることはありませんでした。

こどもが入ったことで、保護者同士のつながりができ、学校生活のことを相談したり、世間話をしたりしながら私自身も楽しんでます。こどもには、多くの人と関わり合いながら、団体行動の中でたくさんのことを学んでほしいと思っています。



佐藤 博昭さん  
(豊里町大曲)

楽しさを知り、継続力を  
身に付けてほしい

私が柔道をしていたのがきっかけで、こどもたちも柔道を始めました。柔道に限らず、スポーツはけがが心配という声を聞いたことがあります。十分に気を付けて活動していると感ずますし、けがをしても、昔と違って無理に活動させられることはないので安心しています。

勝負事なので勝ち負けはありますが、こどもたちには、スポーツをすることの楽しさを知ってほしいと思っています。そして、一つのことを続けるということは将来的にも大切なことだと思うので、継続する力を身に付けてもらいたいです。

## 仲間たちと分かち合う悔しさと喜び 夢に向かって過ごす貴重な日々

こどもたちは夢や目標に向かって努力を重ね、技術だけでなく、団体生活の中で多くのことを学んでいます。そして、体の成長はもちろん、健全な心の成長を願う親は多くいます。日々の活動に励むこどもたちと、その活動を支える保護者の思いを聞きました。



登米市スポーツ少年団本部  
本部長  
木村 健喜さん

入団方法などの詳細は、市公式ホームページをご覧ください。



市公式  
ホーム  
ページ

近年、少子化や部活動の地域移行など、こどもたちを取り巻くスポーツ環境は大きく変わろうとしています。部活動の地域移行には数多くの課題がありますが、好きなスポーツを継続して楽しめるように、スポ少で環境整備の手伝いをしていきたいと考えています。スポ少では「プレーヤーズセンタード」という言葉が使われます。中心にいるのが団員で、その周りにいる指導者、保護者、そのほかの関係者全ての人が幸せになるという概念を表している言葉です。活動には保護者の協力が必要な部分もありますが、こどもの成長を

## こどもの成長と家族の絆を育み 関わる全ての人を幸せに

身近に感じられることや、共通の話題が増えて家族の絆が深まるなど、スポ少に関わることによる喜びや満足感も非常に大きなものがあります。そして、勝つことだけがスポーツの楽しみ方ではありません。「昨日までできなかった」といふ積み重ねが自信につながり、スポーツを好きになります。スポーツは豊かな人生を送るためのツールです。こどもだけでなく保護者の皆さんにとっても貴重な経験になると思うので、こどもの背中を押し、一緒に一歩踏み出してみてはいかがでしょうか。



峰田 穂花さん  
中田町南加賀野

友達に誘われたのがきっかけでミニバスケットボールのスポ少に入りました。

チームワークが大切な競技なので、みんなで声をかけ合いながら、試合で勝てるように頑張っています。

チームの雰囲気がとても明るくて、みんな仲が良く、協力したりミスをしてもしっかり合ったりしているので、とても楽しく活動しています。



伊藤 孝真さん  
南方町峯

両親から勧められて、竹刀を振る姿がかっこいいと思ったので剣道を始めました。体力が付いて、精神面も強くなり、以前よりも積極的に行動できるようになったと思います。

最初から剣道が好きだったわけではありませんが、初めて試合で勝った時にすごくうれしかったので、技を磨いてもっと勝てるようになりたいです。



坂本 明花さん  
豊里町下町

姉がバレーボールをしているのを見て面白そうだなと思ったので始めました。始めてから運動が得意になってきましたし、違う学校の友達もできたのでスポ少に入って良かったです。

バレーはパスをつなぐことが大切なスポーツです。みんなで声をかけ合って、うまくパスがつながって点が取れるとうれしいです。



伊藤 大和さん  
東和町米谷8区

バドミントンの日本代表の選手が、東京オリンピックで活躍しているのを見て始めました。

最初は、うまくやりたいとか勝ちたいという気持ちはそんなにありませんでしたが、今はバドミントンを好きになって、大会で優勝するという目標を持つようになりました。目標を達成できるように練習を頑張りたいです。